

第3回 松山駅まち会議 議事概要録

開催日時：令和3年5月24日（月）
午後3時00分～（60分程度）
場所：オンライン開催（ZOOM）

午後3時 開会

《事務局 挨拶》

- ・あいさつ

《委員紹介》

- ・司会より、委員及び欠席委員の紹介

《座長選出》

【A委員】

- ・羽藤委員を推薦

《座長挨拶》

【羽藤座長】

- ・今年度から改めて事業、計画の深度を増していき、現実の都市整備の動きに繋げてくために必要な議論を行い、決めることは決めていくというフェーズに入ってきている。
- ・各専門家や地元経済界等の皆さんからは、極めて責任のある専門家としてのお言葉、あるいは地元の立場からの意見をいただきたい。

《議題1. 松山駅周辺デザインコンセプト（案）》

【事務局説明】

- ・資料-1に基づき、デザインコンセプト（案）について説明

【羽藤座長】

- ・デザインコンセプトということで、このとおりに作ってくださいということではなく、基本的な考え方を示したものである。
- ・アーバンデザインセンターで、私も含めて素材集めを行い、東側と西側とでそれぞれ取り入れるべき要素を明確化し、ガイドラインとして示した。
- ・説明の中で富山駅の例が挙がっていたため、B委員より意見、考え方等について伺いたい。

【B委員】

- ・富山、整備新幹線は、全て基本的には自治体がコンセプトをだし、鉄道機構でいくつかの案を作り、自治体がまた選定するといった手続きを踏んだ。

- ・富山の例で基本方針1、2、3とあるが、松山駅でも基本方針というのは実質的に共通しているものだと思う。県都松山の新たな顔を作る。多彩な公共交通を快適に繋ぐ。都市拠点としての機能を備える。都市拠点については、防災関係で松山駅及び駅周辺の議論がかつてなされたと記憶している。この方針について富山が例示されたが、富山だけではなくある程度普遍的なものであるのではないか。
- ・新幹線の場合の素材は、県産材を使う話とコンセプトの2つの話がある。デザインコンセプトをどうするかというのはここに書いてあるとおりで、ここに書いていないのは県産材をいかに活用するか。自治体から要望を受けて答えるといった形になる。実は県産材と素材は似て非なるものもあり、素材の定義が必要である。今日の話であると、決して物のことだけ言っているのではなく、そこに背負っている文化や空間性を素材と称している。それを明確にしておく、いろんな関係者も気持ちがひとつになりやすいのではないかと感じた。広い意味で素材をどう反映させるか、松山の持っている重みのある文化的な空間的なものを含め、反映されていると感じた。具体的にどうするかといったところが非常に大事である。今後これからの議論、検討に大きく期待したい。

【羽藤座長】

- ・富山の顔を作る、交通の結節、都市機能という3つの条件が富山駅の場合あるが、この点について松山駅でも同じことではないかということは、まさにおっしゃられる通りである。
- ・素材と県産材の使い方を、今回素材というのは広く解釈しデザインに取り込んでいただいたというところで、素材集として整理している。実際の設計の過程で取り入れる際には様々な協議が必要となるため、この協議の場をいかに粘り強く行っていくということが重要である。松山市には音頭を取りながら、継続的な協議をお願いしたい。
- ・C委員より、ひと言いただきたい。

【C委員】

- ・今回駅だけではなく駅周辺、全体の「まち」という絡みの中で、高架事業の時間軸が早く設定され進んでいる。
- ・西口については既に本体工事も始まり駅舎の設計の準備も進めているところである。今回のデザインコンセプトを踏まえ、具体的な協議の場に移っていく必要がある。
- ・事業者の立場から見ると、できるだけ協力したいところと、工事費や維持費といった問題もあるため、そこも含めて皆様がいいような形の答えになることを期待している。

【羽藤座長】

- ・西口に関して、連立の方は確かに先行して進んでいるため、高く上がるということに関して、駅の顔を作るということは先行して進めなければならないということである。この駅西口の素材のマツ、スギ、あるいは長屋門のような構えが西側の町に広がっている風景を勘案し、これをベースに設計案を詰めていく協議ができればと思う。
- ・その他に意見はあるか。

【B 委員】

- ・富山駅では予算制約があった。その予算制約があるということは、何を重視して何を脇にするか、そういった選択がでてくる。今後具体化する中で選択問題が発生した場合には、そこも含めて必要に応じて検討が進むようなことがあればいい。
- ・景観そのものも大きな素材である。例えば道後の街の景観とかも、コンセプトには入っているが、写真も入れてもいいのかもしれない。

【羽藤座長】

- ・JR 松山駅の場合は、周辺のランドスケープの松山城があり、さらにその奥に湯築城、道後温泉があるため、東口に関しては特にこうした風景の中でこの松山駅をどういうふうに屹立せしめしうるかというところが非常に重要な視点となる。富山の場合は立山を上手く取り込んだ形で非常に立体的な移動風景出来上がっているため、参考にしていきたい。
- ・デザインコンセプトはこれで承認いただいたということで、これを基に今後事業者の方を交えて具体の設計協議に入っていきたい。今後非常に重要な局面になろうかと思うので、委員皆様と意見交換もしながら着実に進めていきたい。ご協力をお願いしたい。
- ・続いて、議題 2 の説明を事務局よりお願いしたい。

《議題 2. 「交通拠点の機能強化に関する計画ガイドライン」について》

【国土交通省】

- ・資料 2 に基づき、交通拠点の機能強化に関する計画ガイドラインについて説明

【羽藤座長】

- ・今、関東の方では相当な拠点の構想が動いており、まさにそのネットワーク化が進められようとしている。松山でもこうした高速バスの需要が COVID-19 の前を考えると非常に多いことから、こうした拠点として JR 松山駅を位置付けることも考えられるのではないかと。その場合には、国交省さんのバスタプロジェクトにより、制度的、あるいは資金的な関連性の中で補助いただきながらやっていくことも十分にあり得るというご提案のように思う。今までもバスをどう取り扱うかは四国の移動時を考えると非常に大きな需要のため議論してきたこととは思うが、バスタというものをこの JR 松山駅に埋め込むということについて、意見をいただきたい。

【D 委員】

- ・今のところ駅前には非常にシンプルなつくりになっており、県外から来た方は若干わかりにくいような形態にもなっているため、いろいろ利便性が増した形になっていけばベストではないかと思う。

【C 委員】

- ・鉄道事業がメインの会社ではあるが、本来はいわゆる人流企業。人の移動のところの中で事業していくという観点で、鉄道がメインではあるが、実際のところは駅から目的地、あるいは

は自宅から目的地、本当はそのあたりをトータルでマーケティングの観点からも含めてチェンジしていかないと、やはり車交通に段々シフトしていってしまうという危機感がある。そういった観点でいくと、従来私たちが見ている世界ではない、すごく先の世界を想像しながら、1つはこのバスタという事例もだが、従来の概念も少し乗り越えていくような形で拠点の交通結節点の整備というのは考えていく必要があるのかなと感じている。

【羽藤座長】

- ・品川や呉等の各地のバスタでは、鉄道事業者と国交省の道路側、あるいは自治体側が組み、この事業を考えていくというところに踏み切っている。また、COVID-19 下で非常に交通事業者としてのマネジメントが難しくなっている中で、是非こうした事業を好機ととらえてタッグを組み、この交通結節機能、駅から駅へというところを実現していくような動きに繋がっていったらと思うので是非ご協力をお願いしたい。

【E 委員】

- ・一般論として、当然全国のネットワークに繋がるため、地域間競争という意味でもこういったバスターミナルができることは望ましいことだと思う。
- ・松山の中でどういう必要性、1番は利用者の方の利便性がどうなるのか、その辺り今必要性ということで調査されているのかと思っている。仮に、J R松山駅の中で作るとなると、松山駅周辺の中でどういう位置づけになるのか、その辺りも検討が必要かなという印象は持っている。今後、国土交通省さん、松山市さん等が必要性や具体化に向けて検討されるのだろうと思っているので、注意深く我々も見していきたい。

【羽藤座長】

- ・各地では今、社会実験のようなやり方でバスタの意味づけ、役割を確認していくようなこともやっている。是非、松山河川国道事務所さん等を中心としながら、J R松山駅からバスタを想定して、自動走行やそれに模したようなものを動かしてみて、市民の方々や観光客の方々の使い勝手がどうかということ共有していくという辺りからスタートしていくのも有効かと思う。

【B 委員】

- ・バスタということのを被せると、全体のレイアウトにも影響を与えることもなる。そういった意味では、バスタの時間軸、駅前広場の時間軸、その辺りが非常に気になるところである。現段階では、どのように見込めばいいのか。それによって、駅前広場を吸収できるようにする、あるいは将来また少し改良してさらにすりつけれるようにできるとか、そういったことも少し視野に入れた方がいいのかなと思う。自動運転自動車もどうなるか分からないが、検討要素、パラメーターとしてあるのかもしれないと感じた。いずれにしてもどういうマーケットを対象とするのかにより、かなり設計が変わってくると思うので、その辺りについてこれから検討を進めていく必要があるのかなと思う。

【羽藤座長】

- ・ 1つは高速バス、もう1つは路線バスということだと思うが、そこに自動走行の細やかなネットワークを加味して、新しい松山駅を作っていくというときの、路面交通の拠点になろうかと思う。そういったところに事業の時間感覚といったところでいくと、恐らく道路附属施設という立て付けで整備を行うので、事業費の方はかなり国費が入ってくるといことで、事業者の負担というところは事業のやり方にもよるが比較的少ない。県とか市の事業としても、財政効果のある事業にしていける可能性はあるので、恐らくスピード感を持って事業ができるタイプの制度の支援をお考えいただけているのかと思っているので、細かなレイアウトを今後検討する、あるいは社会実験等やっていくというところに、今年度、次年度踏み込んでいけたらと思う。
- ・ 路面電車のレイアウトについてはほぼ決まっているため、これを動かすといったことにはならないと思うが、A委員の意見を伺いたい。

【A委員】

- ・ どういう移動を想定して整備していくかというところで、高速バス、こちら側の発着もそうだが、JR移動の方、路面電車、路線バス、朝の通勤通学のお客様、そういった方の移動の動線を見ながらどういう結節が作れるのかというのは、当然計画の中に入ってくると思う。先程言われたようにコロナ禍で非常に厳しい時なので、国費でできるというのは地域にとっても我々事業者にとってもメリットであり、いろんな計画を細かくまた協議していくところかなと思う。

【羽藤座長】

- ・ 公共交通は地域でなくてはならないものであるため、今の景気の中で国からの支援を得ながらやるという非常に性質のいい事業であるので、これでもって松山駅の新しい形を一步も二歩も前に進めていくことができればいいと思う。
- ・ 平面の動線の話までは至っていないが、バスの動線の組み込み等についても考慮すべき点、交通安全の観点から多々あるかと思うので、警察の意見を伺いたい。

【F委員】

- ・ バスタをもし松山駅の前に持ってきたとなると、やはり1番考えないといけないのは、実際の道路との接続がどういう形になるのかなというのが現段階ではイメージしづらいところがある。その部分を警察の交通安全、円滑、両方両輪にかけて考えていかなければならないので、今後検討していけたらと思う。

【羽藤座長】

- ・ 配置とボリュームと車線運用、信号、歩行者、自転車との輻輳のところのスタディーを綿密にやっていくことではないかと思う。十分にやっていけると思うので、また協議をお願いしたい。

- ・このバスタができるということ、大手町方面に向けてということになるかと思うが、何かこういう都市的な拠点ができるということに関して、G委員の意見を伺いたい。

【G委員】

- ・松山駅まちづくり勉強会を平成30年からやっており、提言書が纏められているので、紹介させていただく。
- ・「地域に活力を生むための広場」ということで、松山駅前広場は地域の活力の場であってほしいと考えている。イベントを実際にやってみると、イベントをきっかけに駅に来る人が増えるということも多かった。また実際に、立ち寄り行動も多く見られた。一方で、イベントを実施する中で、教訓的な制約もあった。電源がない、給排水がない、照明が暗い、あるいは雨が降るとイベントが開催できないこともあったので、これから駅前広場をデザインする場合に、そういったことも考慮しながら検討していただきたい。
- ・「滞在したくなる駅」ということで、駅前の集約整備をお願いしたい。
- ・「戦略のある案内所」。現在は駅の隅に狭い案内所があるが、他の都市から来られるとかなり貧弱なので、観光名所の充実ということで拡充、充実していただきたい。
- ・「まちと繋げる」ということで、松山駅前と大手町との交通の流れを、今は地下道を通り大手町側の方へ来ているが、これをバリアフリーで平面移動できるように検討いただきたい。

【羽藤座長】

- ・広場でオープンスペース、あるいは案内所、ビジターセンター的なものを、バスタ等とも連携しながら設置していけるようなこともあり得るのかなと思う。

【H委員】

- ・バスやJR等のいろんなものの結節点となり、空港からのリムジンバスも通っているため、このデザインコンセプトは県内あるいは県外から来た人も、非常に愛媛に来てよかったなと思えるようなものを是非作っていただきたい。
- ・高松や徳島に出張へ行くと、たいいてい高速バス専用の待合所みたいなものがあったが、JR松山駅では現在JRと一緒にいるので、バス利用者の待合所みたいなものも検討できればいいのかなと思う。
- ・歩行者の方も今は地下道等いろんな形で通っているので、この再開発には歩行者の動線もしっかり安全で動きやすいというように、そういう点を確保していただきたい。

【羽藤座長】

- ・待合等はバスタの中で恐らくできてくることになると思う。歩行者の動線は、最も重要と思う。

【I委員】

- ・松山市の場合、JR松山駅と松山市駅があり、それぞれ現在は高速バスも乗り入れており、役割分担の切り分けが難しいところもあると思うが、この計画の中でそういった交通整理ができ、市内の渋滞緩和に繋がるというような計画になればと思う。

【J 委員】

- ・単純にターミナル、バスタをつくるだけの整備で終わらせるのではなく、周辺も含めたまちづくりとの連携を考えていくことが重要であると思う。建政部としては、まちづくりにあたりいろいろと支援のメニューがあるので、まずはどこにバスタを作るかといったところかと思うが、松山市、あるいは愛媛県の方でいろいろ具体的な中身が集まってきたら、そういった支援メニューの相談もできるので今後ともよろしくお願ひしたい。

【羽藤座長】

- ・「まちづくりに」というところ、非常に大事な視点だと思う。ご指導よろしくお願ひしたい。

【K 委員】

- ・団体客がコロナの影響でほとんどなくなり、これからはいわゆる小グループの移動が、若い方も含めて多くなると思う。そのため、このようなバスタプロジェクトを進めていただき、そういう拠点を多くつくっていただくということは道後の方にとっても非常にありがたいと思う。是非進めていただきたい。

【羽藤座長】

- ・K 委員も午前中にマイクロツーリズムとおっしゃられていた。そういう方々がタイミングを見ながらこういうバスタというようなネットワークに加わることで出てくればと思う。
- ・L 委員の意見を伺いたい。

【L 委員】

- ・今回バスタということで、長距離のバスが入っているということが気になった。地域のバスも入っているということだが、やはり長距離で移動してくる人が多い、利用者の属性が少し異なるということが気になるところである。高知に行く際に松山を通過したので、そういう乗継拠点みたいなところにもなり得るかなと思う。そのため、シームレス化ということも1つの問題ではないかと思う。単なるデスティネーションではなくて乗換拠点、どうやって乗換負担を軽減するかとか、そういうことも大事になってくるのではないかなと感じた。
- ・行政的な立場から言うと、評価というところが少し気になる。従前従後でどう変わったかというときに、賑わいとかそういう評価になると結構難しくなってくるので、多様な主体の皆さんが参加されているので、今の時点からデータを収集しておくのがいいと思う。

【羽藤座長】

- ・評価の視点も非常に重要な視点だと思う。今アーバンデザインセンターさんや松山市さんの方でも、交通シミュレーション等使い、交流機能をどこまで増やしていけるのか、あるいはどんな機能が入ってくるとどういう効果があるのかといったようなことの検討も進められているので、こうしたことも合わせて是非今後の在り方を考えていけたらと思う。

- ・概ねバスタというものを考えていくということに関しては合意が得られているようにも思うので、是非今度は具体的なレイアウト、それから道路の動線行動、その辺りを検討、スタデューを進めていただくとともに、開発の規模感と簡単な社会実験等を行っていただき、使い勝手感について関心を高めてもらうというようなところのステップに進んでいただきたい。松山市さんとも協議しながら是非お願いしたい。

【事務局】

- ・今後社会実験等の検討もしていきたいと思うので、またご助言をお願いしたい。また、関係者の皆様のご協力もよろしくをお願いしたい。

【羽藤座長】

- ・スマートシティの会議の場でも、自動走行のネットワークを松山市の拠点としてバスタを考えられないかといったような議論もされている。企業の方々にも入っていただき、実際に今年度社会実験をやると言えるかどうか分からないが、Mさんの意見を伺いたい。

【国土交通省 M】

- ・社会実験については、松山市さんの方でも事前に検討されている内容もあるというふうに伺っており、その内容を一度お聞きし、実際今の時点で我々の方でバスタとしての予算をご支援させていただくことができるかというのは少し検討させていただきたいと思う。今松山市さんの方にもどういったものをやるか教えてもらうようお願いもしているので、引き続きまたお願いできればと思う。

【羽藤座長】

- ・花園町通りも社会実験をやってから進んだというところもあるので、やはり市民の方々にもご参画いただく形の社会実験というところをファーストステップとしていければと思う。
- ・議題2については、そういったことでこのバスタというところをJR松山駅の機能として盛り込んで進めていくということで今後お願いできればと思う。
- ・それでは、その次の議題についてお願いしたい。

《議題3. その他》

【事務局】

- ・その他、なし。

【羽藤座長】

- ・松山市から全体通して何かあるか。

【事務局】

- ・時間が限られているので、物事を1つずつ決めていかないといけないということと、土地利用を決めるためにいろんな方面、ディベロッパー等へ土地利用の意向アンケートを今後取っ
ていき、交通計画とセットで早く動いていきたいと思う。

【羽藤座長】

- ・西口のデザインについては、今日具体的なコンセプトが出たので、設計の協議に入ってい
き進めていただくということは今日確定した。東口については、開発の案件が県、市、J Rの
土地と色々な土地があるので、それぞれの開発ボリュームが結局どれだけの交通需要を生
み出すのかということもあわせて、周辺道路の混雑等にも関係してくるので、ここの関係
を見ながら、このバスタというところでそれらの機能の調整をどう解けるのかというところ
のスタディーを是非案1、案2、案3くらい作って協議の方をさせていただきたい。開発事
業者の方々をどうマッチングしていけそうかというところの感触を得た上で、事業化に向け
た基本計画として確定させていきたい。その後、事業化ということになれば、具体的に調査
費、事業費が付き進んでいくということになるので、スピード感を持って取り組んでいき
たいと思う。今年度から急に事業事業してきたと思った方も多いかと思うが、進めていくべき
タイミングだということで、是非協力をお願いできればと思う。

午後4時10分 閉会